

育成だより 5月園だより

## いつまでも待っている

えんちょう こうち たかし  
園長 高地 敬

ミヒヤエル・エンデという児童文学作家の作品の一つに『モモ』があります。映画にもなったようです。「時間」について深く考えさせてくれる作品だったと思いますが、また読んでおきます。

モモという名の少女がいて、彼女の友達の一人はとても無口なおじいさんでした。道路掃除夫ベッポという名で、彼は人に何か聞かれても、どう答えるか二時間も、時には一日考えて返事をしますから、みんなにおかしな奴だと思われていました。ベッポは毎日モモのところにやってきて隣りに座って話をします。「モモだけはいつまでもベッポの返事を待ちましたし、彼の言うことが良く理解できました。」

『モモ』はずいぶん前に読んだきりですが、モモとベッポのことを書いたこの部分が今も心に残っています。ベッポの次の言葉を何時間でも待っていて、彼が自分の考えをまとめ、適切な言葉を探している間、モモはじっと待っている。つまり、自分の時間をみんな相手のために使っている。聞いてくれる人がいるから話せるし、待っていてくれる人がいるからゆっくり考えることができる。モモのように人を待てる人間になればと思ったのですが、実際には簡単なことではありませんでした。

お母さんたちはかなりの時間を子どもたちに使っています。子どもの次の言葉を待っていることも多いのだと思います。二時間も待てませんが、「待っていてくれるお母さん」がいるという素敵な信頼感が、子どもたちの成長にとって大事なことなのでしょう。